

“ヒロシマ”，すなわち，世界で初めて原爆を受けた都市広島市は，この8月で25周年を迎えることになる。初めて広島を訪れる人は，立派に復興し，実勢人口100万人に近い近代都市になり，中国・四国広域経済圏の中核管理機能を立派に備えるべく躍進を続けている現在の広島からは，原爆に打ちひしがれ，世界にその例をみないほどの徹底した破壊を受けた“ヒロシマ”を想像することはできないと，異口同音におっしゃる。この25年の年月は，広島にとって，まことに偉大な意義深い変貌をもたらした年月といえよう。そしてこのことは，広島ばかりでなく，わが国にとっても同じことがいえるのであり，想像を越えた大きな変革をもたらし，今後の変革を確実に約束した。すなわち，激動の70年代の準備を着実にこなしてきた時期であったともいえよう。

しからば，このような大きな変貌とはどんなものであり，そして，われわれは土木技術者として，どのように受けとめたらよいのであろうか。

中国地方は，神話の国山陰を含めて古くから拓け，特に，気候温和な風土と海上交通の便に恵まれた瀬戸内海沿いを中心として，産業，文化の進んでいた地域であり，そして，常にわが国の産業・経済の発展の歩調と軌を一にして進展した地域である。さらに昨今では，わが国を大きく揺り動かしているいろいろな社会現象，経済現象が，奇しくもそっくりそのまま，この中国地方に内臓されているといわれている。

瀬戸内海沿いにおける最近の工業の発展は目を見張るものがあり，重工業，重化学工業の伸び率はわが国のそれを大きく上回り，今後もこの傾向は急上昇で続くと言われている。ために，社会資本投資の規模もきわめて大，かつ活発で，山陽新幹線鉄道，中国縦貫高速道路，海峡架橋，港湾整備，工業用水の確保，沿岸の埋立て，団地造成等々枚挙にいとまがない。誠に瞠目すべき盛観であるが，ここで目を他に転ずれば，新たな問題に気がつく。すなわち，一方では大きく膨張する都市の過密現象，一方では同じ地域内でありながら，極端な過疎現象を見せており，経済政策面，交通政策面，文教政策面，環境衛生，保健衛生等，生活環境に大きな影響を与えており，わが国の最近の生活行動水準の変化とともに，大きな問題点を投げかけ，そのひずみをますます大きくしようとしている事実である。われわれは，このひずみを

前述の大規模なプロジェクトの遂行の過程のなかで，どのように調和させるべきなのだろうか。このことは，同時にわが国全体のきわめて重要な，そして緊急を要する問題でもあろう。

世界にその例を見ない日本経済の高度成長，この基盤の役割を果たしている技術の進展は，技術界内外の情勢を大きく変えつつある。この変貌の渦中にあるときこそ，大局的見地に立っての配慮を見失うことのないことが最も大切なことではないだろうか。

技術とは，元来天然自然に存在する物やエネルギーにいろいろ工夫を加え，人間生活に必要な物を生産したり，生活のより向上への願望を満たす方法を見つけるための応用科学であろう。そして庶民のための，市民生活をより豊かにするための技術が，シビルエンジニアリングと呼ばれてきた。その後，各種の工学が分化し，発展してゆき，今日に至っている。

それがゆえに，現在の複雑な社会機構，高度化された経済活動，さらには流動に流動を続ける微妙な人間関係のなかで，適正な地域開発，能率のよい交通施設，住みよい都市，快適な環境整備等を遂行し，しかも，常にその時代その時代で変わる価値体系のなかで，新しい価値観を誤らずに，調和をはかり合理性を貫くことを要求されるのは，やはりシビルエンジニアリングであろう。

すなわち，土木技術は，巨視的な立場での目的を十分把握し，自然科学に加えて人文科学をも含め，激動の年代における新しい価値体系のもとに，全体を総合的に調和させる管理を，新たに要求されてきている。このことは，今後ますますそのプロジェクトが大型化する今日，いよいよ強く要求されることであろう。

以上述べてきたことは，いままでも幾度か論じられた「分化と総合」の問題でもあり，また，昨今いわれている組織工学，未来工学，サイバネティクスなどと共通していることかも知れない。分化を重ねて発展したものを，分化以前の基盤をなす精神に基づき，有機的総合をはかることにより調和が得られ，それがまた次の進歩（文化）を約束することにもなる。そのために，本土木学会が率先して他の学会に呼びかけ，各種工学の有機的な調和のある総合をはかる場を提唱していかねばならぬ。

* 正会員 前・土木学会中国四国支部長，国鉄中国支社長